



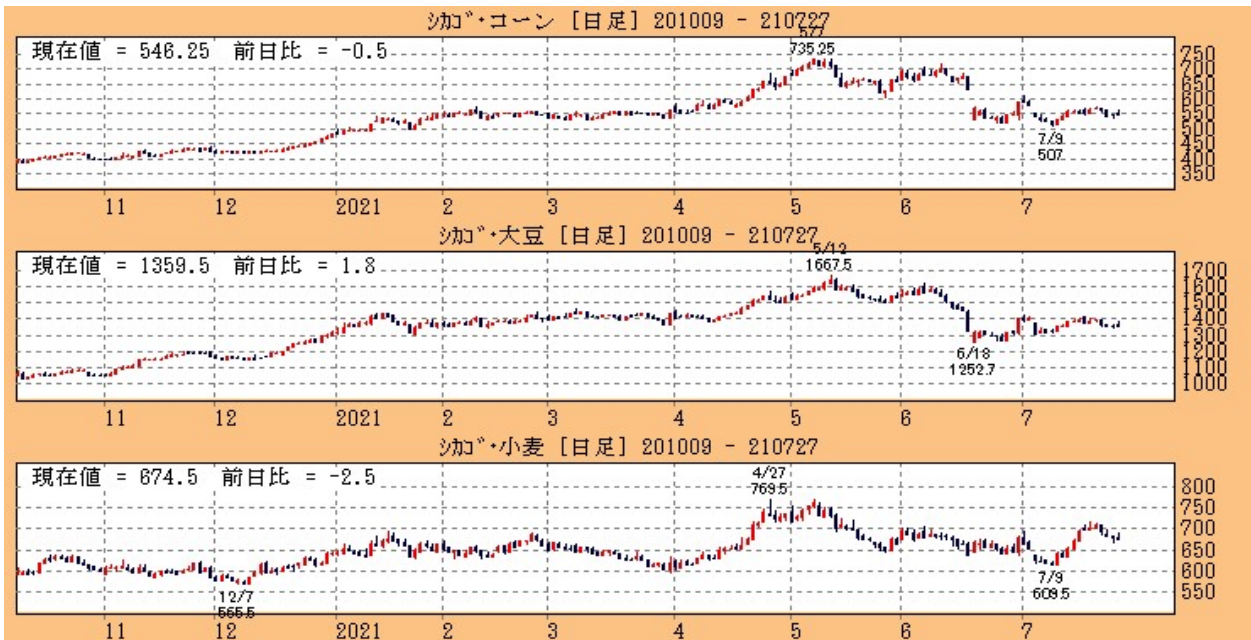
週刊穀物



世界の穀物情報がここに凝縮されています。
毎週水曜日夕方発行

トウモロコシは反落、大豆は続伸

発行日 : 2021/7/28



27日のシカゴトウモロコシ12月限は前日比▲0.50セント安の546.25セントと反落。取引レンジは542.25～560.75セント。米農務省（USDA）が前日の取引終了後に発表したトウモロコシの作況指数は、前週から1ポイント低下し64%となり、事前予想を下回ったことから買いが先行したが、米産地では今週後半に気温が低下するとの予報が出ており、作柄改善への期待感から反落した。上昇した場面では利益確定売りにも押された。下値では値ごろ買いも入っていたもようだが戻りは弱く、小幅安で取引を終了した。

シカゴ大豆11月限は前日比+1.75セント高の1359.50セントと続伸。取引レンジは1355.50セント～1387.50セント。米農務省（USDA）が前日の取引終了後に発表した大豆の作況指数は、2ポイント低下し、58%となり、事前予想も下回ったことから買いが先行した。米産地の気温は今週後半には低下するとの予測が発表されたことで上げ幅を大きく縮小した。輸出需要の先行き低迷を見込む売りも圧迫要因。ただ、作柄悪化に対する警戒感が強く、プラスサイドは維持して取引を終了した。

シカゴ小麦9月限は前日比▲2.50セント安の674.50セントと4日続落。取引レンジは671.75～690.00セント。米農務省（USDA）が前日の取引終了後に発表した春小麦の作況指数は「優」「良」の占める割合が前週から2ポイント低下し、9%となり、事前予想も下回ったことから、作柄悪化に対する警戒感から上昇する場面もあったが、米産地の気温が低下するとの予報から作柄改善への思惑が圧迫材料となった。輸出見通しへの警戒感も根強く、上昇した場面では利益確定売りにも押された。

TOPICs Crop Progress

トウモロコシ				18州
Silking	前年度	2020年度	過去5年平均	
6月27日	4%	4%	6%	
7月4日	9%	10%	14%	
7月11日	26%	26%	30%	
7月18日	55%	56%	52%	
7月25日	79%	79%	73%	

トウモロコシ				18州
Dough	前年度	2020年度	過去5年平均	
7月11日	3%	3%	3%	
7月18日	8%	8%	7%	
7月25日	20%	18%	17%	



大豆			18州
Blooming	前年度	2020年度	過去5年平均
6月20日	5%	5%	5%
6月27日	13%	14%	11%
7月4日	29%	29%	24%
7月11日	46%	46%	40%
7月18日	62%	63%	57%
7月25日	74%	76%	71%

大豆			18州
着サヤ	前年度	2020年度	過去5年平均
7月4日	2%	3%	3%
7月11日	10%	10%	10%
7月18日	23%	23%	21%
7月25日	40%	42%	36%

※ Dough Stage（ダフステージとは、コーン粒のミルク状の中身が徐々に柔らかい固まりになって行く過程のことで、この時期に早霜に襲われると、いわゆるソフトコーンになり大きな被害が出る）

トウモロコシ							大豆						
作柄	Very Poor	Poor	Fair	Good	Excellent	優と良	作柄	Very Poor	Poor	Fair	Good	Excellent	優と良
5月30日	1%	2%	20%	62%	14%	76%	6月6日	1%	5%	27%	57%	10%	67%
6月6日	1%	4%	23%	58%	14%	72%	6月13日	2%	6%	30%	53%	9%	62%
6月13日	1%	4%	27%	56%	12%	68%	6月20日	2%	7%	31%	51%	9%	60%
6月20日	1%	5%	29%	54%	11%	65%	6月27日	2%	7%	31%	50%	10%	60%
6月27日	2%	6%	28%	51%	13%	64%	7月6日	3%	8%	30%	49%	10%	59%
7月4日	2%	7%	27%	50%	14%	64%	7月11日	3%	8%	30%	49%	10%	59%
7月11日	2%	6%	26%	51%	14%	65%	7月18日	3%	8%	29%	49%	11%	60%
7月18日	2%	7%	27%	50%	15%	65%	7月25日	3%	9%	30%	47%	11%	58%
7月25日	3%	7%	26%	49%	15%	64%	前年度	1%	5%	22%	57%	15%	72%
前年度	2%	5%	21%	55%	17%	72%							

冬小麦			6州
Harvested（収穫）	前年度	2020年度	過去5年平均
6月6日	6%	2%	7%
6月13日	14%	4%	15%
6月20日	27%	17%	26%
6月27日	39%	33%	40%
7月4日	54%	45%	53%
7月11日	66%	59%	65%
7月18日	73%	73%	74%
7月25日	80%	84%	81%
春小麦			6州
Headed	前年度	2020年度	過去5年平均
6月13日	4%	8%	6%
6月20日	11%	27%	18%
6月27日	33%	48%	39%
7月4日	59%	69%	62%
7月11日	78%	83%	81%
7月18日	89%	92%	92%
7月25日	96%	97%	97%

春小麦						
作柄	Very Poor	Poor	Fair	Good	Excellent	優と良
5月30日	4%	16%	37%	39%	4%	43%
6月6日	9%	16%	37%	35%	3%	38%
6月13日	9%	18%	36%	34%	3%	37%
6月20日	15%	22%	36%	25%	2%	27%
6月27日	14%	25%	41%	18%	2%	20%
7月4日	18%	32%	34%	14%	2%	16%
7月11日	21%	34%	29%	15%	1%	16%
7月18日	29%	34%	26%	10%	1%	11%
7月25日	32%	34%	25%	8%	1%	9%
前年度	2%	4%	24%	60%	10%	70%

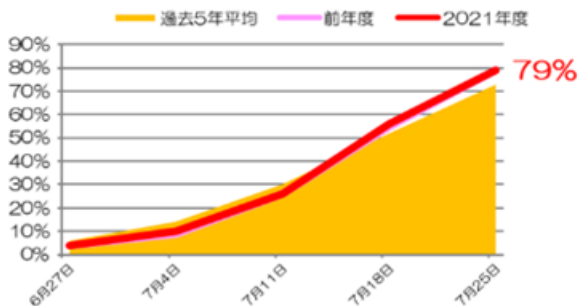
7月25日までの週の米国のトウモロコシのSilkingは79%完了。昨年は79%、過去5年平均は73%。Doughは18%完了。昨年は25%、過去5年平均も17%。トウモロコシの作柄は、優と良が64%で前週より▲1%低下。前年は72%。大豆の開花は76%完了、昨年は74%、過去5年平均は71%。着サヤは42%完了、昨年集40%、過去5年平均は36%。大豆の作柄は優と良が56%で前年の72%より少し悪い。冬小麦の収穫は84%完了、前年は80%、過去5年平均は81%。春小麦のHeadedは97%完了。昨年は96%、過去5年平均は97%。作柄は優と良が9%で前年の70%よりかなり悪く、不作である。

春小麦			6州
Harvested（収穫）	前年度	2020年度	過去5年平均
7月25日	1%	3%	2%



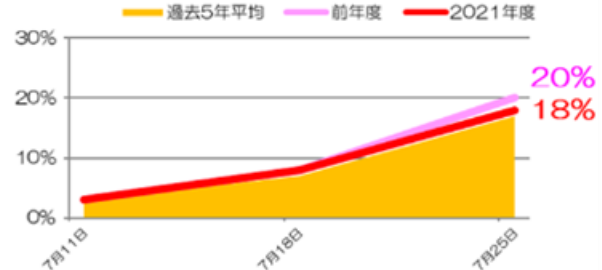
7月25日までのトウモロコシ

21/22年度の **Silking** 進捗状況



7月25日までのトウモロコシ

21/22年度の **Dough** 進捗状況



7月25日までの大豆

21/22年度産大豆の **開花** 進捗状況



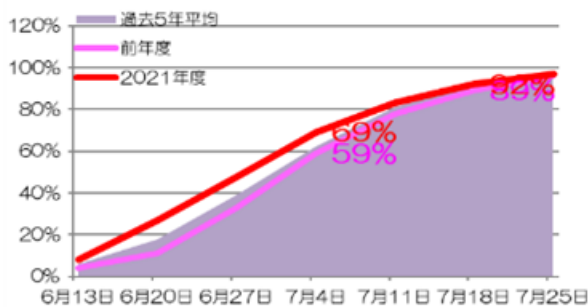
7月25日までの大豆

21/22年度産大豆の **着サヤ** 進捗状況



7月25日まで21/22年度米国産

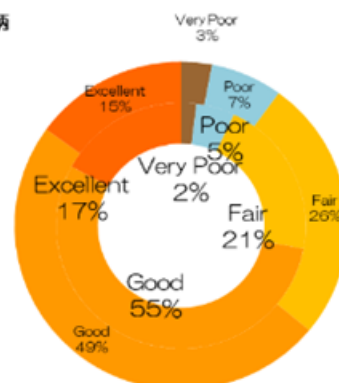
春小麦の **Headed** 進捗状況



トウモロコシの作柄

(7月25日)

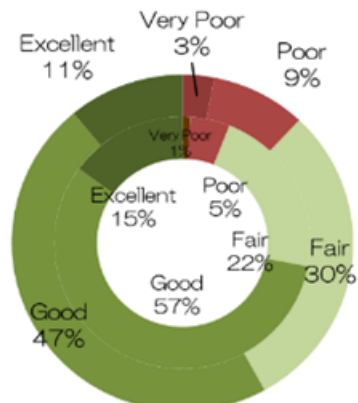
外側は2021年
内側は2020年



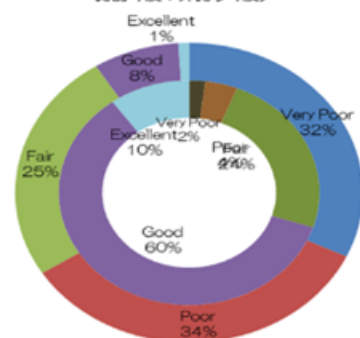
大豆の作柄

(7月25日)

外側は2021年
内側は2020年



2021年7月25日春小麦の作柄 (内側前年度：外側今年度)



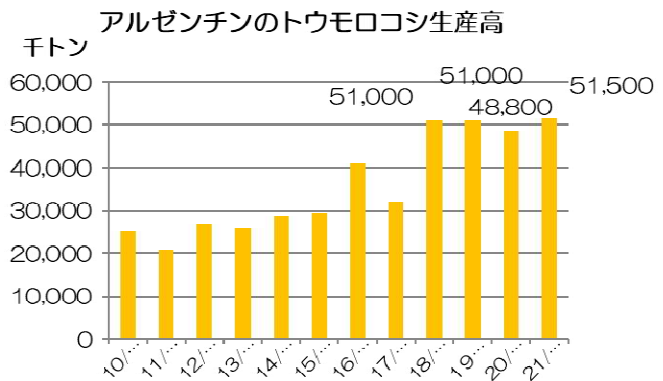
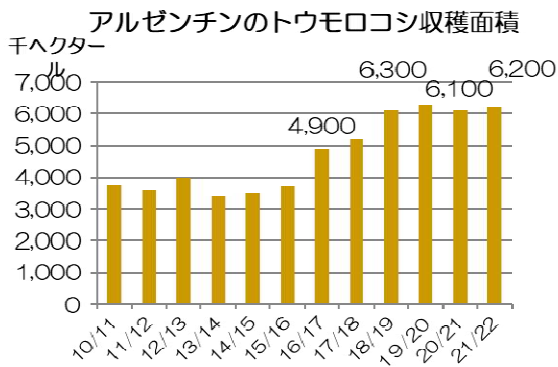


TOPICS アルゼンチンのトウモロコシ

千トン・千ヘクタール	18/19年度	前年比	前年比%	19/20年度	前年比	前年比%	20/21年度	前年比	前年比%	21/22年度	前年比	前年比%
収穫面積	6,100	+900	+17.3%	6,300	+200	+3.3%	6,300	+0	+0.0%	6,400	+100	+1.6%
期初在庫	2,407	▲2,866	▲54.4%	2,367	▲40	▲1.7%	3,619	+1,252	+52.9%	2,924	▲695	▲19.2%
生産	51,000	+19,000	+59.4%	51,000	+0	+0.0%	48,800	▲2,200	▲4.3%	51,500	+2,700	+5.5%
輸入（穀物年度）	5	▲2	▲28.6%	4	▲1	▲20.0%	5	+1	+25.0%	5	+0	+0.0%
輸入（暦年）	5	▲2	▲28.6%	3	▲2	▲40.0%	5	+2	+66.7%	5	+0	+0.0%
供給合計	53,412	+16,132	+43.3%	53,371	▲41	▲0.1%	52,424	▲947	▲1.8%	54,429	+2,005	+3.8%
輸出（穀物年度）	37,244	+14,771	+65.7%	36,252	▲992	▲2.7%	35,500	▲752	▲2.1%	37,400	+1,900	+5.4%
輸出（暦年）	32,879	+8,679	+35.9%	39,917	+7,038	+21.4%	33,500	▲6,417	▲16.1%	38,000	+4,500	+13.4%
飼料用その他	9,700	+1,200	+14.1%	9,500	▲200	▲2.1%	10,000	+500	+5.3%	10,400	+400	+4.0%
食料用需要	4,100	+200	+5.1%	4,000	▲100	▲2.4%	4,000	+0	+0.0%	4,100	+100	+2.5%
国内需要合計	13,000	+600	+4.8%	13,500	+500	+3.8%	14,000	+500	+3.7%	14,500	+500	+3.6%
期末在庫	2,368	▲39	▲1.6%	3,619	+1,251	+52.8%	2,924	▲695	▲19.2%	2,529	▲395	▲13.5%
期末在庫率	52%	▲1.4%	▲21.5%	68%	+1.6%	+31.3%	6.2%	▲0	▲9.1%	4.8%	▲1.3%	▲21.7%
生産+輸入（①）	53,412	+16,132	+43.3%	53,371	▲41	▲0.1%	52,424	▲947	▲1.8%	54,429	+2,005	+3.8%
国内消費+輸出（②）	45,879	+9,279	+25.4%	53,417	+7,538	+16.4%	47,500	▲5,917	▲11.1%	52,500	+5,000	+10.5%
需給バランス（①-②）	+7,533			▲46			+4,924			+1,929		
単収	8,3607	+2,2069		8,0952	▲0,2655		7,7460	▲0,3492		8,0469	+0,3009	

21/22年度の生産量は過去最高の5150万トンと予想

21/22年のトウモロコシの収穫面積が+10万ヘクタール増、生産量は前年比+270万トン増の5,150万トンと予想され、過去最高となる見込み。前回の予想から+50万トン、+15万ヘクタールの上方修正となる。長期的な天気予報では、春（北半球の秋）は乾燥すると予測されており、遅植えのトウモロコシの生育が増加する可能性がある。



遅植えに転換

遅植えのトウモロコシは、早植えのトウモロコシよりも収量の変動は少ないものの、収量の上限はやや低いと考えられている。

アルゼンチンのトウモロコシ生産量は20/21年度は前年から少し減少したが、21/22年度は増加して過去最大となる見込み。輸出量は、20/21年度は前年比▲641万トン減、▲16.1%減であったが、21/22年度は+450万トン+13.4%増となる見込み。20/21年度の遅植えトウモロコシに対する天候には問題が無かった模様。内需はこのところ前年比+50万トン増が続いている。そのため、期末在庫は20/21年度が▲69万トン減、21/22年度は▲39万トン減と減少する見込み。



価格は高い

肥料や作物保護製品の価格が大幅に上昇しているため、最近では収益率が低下しているが、エタノール工場や港に近い地域では、トウモロコシの収益が最も高くなっている。

世界的な商品市場の最近の変動にもかかわらず、地元農家は、穀物価格は2021年5月初旬に見られたピーク価格に戻ると楽観的に見ている。多くの農家は、生産量を最大化することで収益性を高めることを目的に、多額の投資を選択して、すでに投入資材を購入している。

20/21年度の収穫は順

20/21年度のトウモロコシ収穫の約75%が完了したことから、多くの情報筋や関係者は、特にトウモロコシの生産量が少ないラパンバ州、サンティアゴ・デル・エステロ州、アントレ・リオス州のトウモロコシの収穫面積と生産量を上方修正している。

遅植えのトウモロコシは、ほとんどの地域で良好な収量を示しているが、特にコルドバ州の南部と東部ではタイミングよく十分な雨が降った。アルゼンチンのUSDA支局では、20/21年度のトウモロコシ生産量を4,880万トンと予測しており、米国農務省の公式発表を+30万トン上回っている。

21/22年度の輸出は3740万トンと予測

21/22年度のトウモロコシ輸出量は3,740万トンとなり、米国農務省の公式発表を+140万トン上回る。

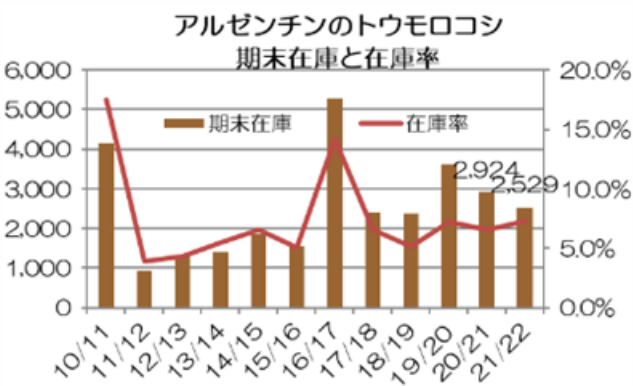
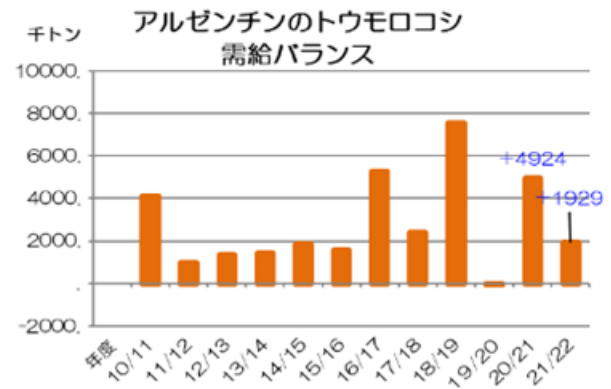
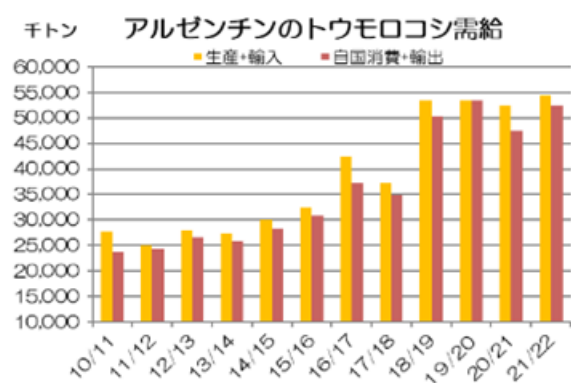
国内需要は1,400万トン

生産量の増加と期首在庫の増加により総供給量を多めに見込んでいるが、20/21年度の国内消費量は1,400万トンと、米国農務省の公式発表を▲50万トン下回っている。



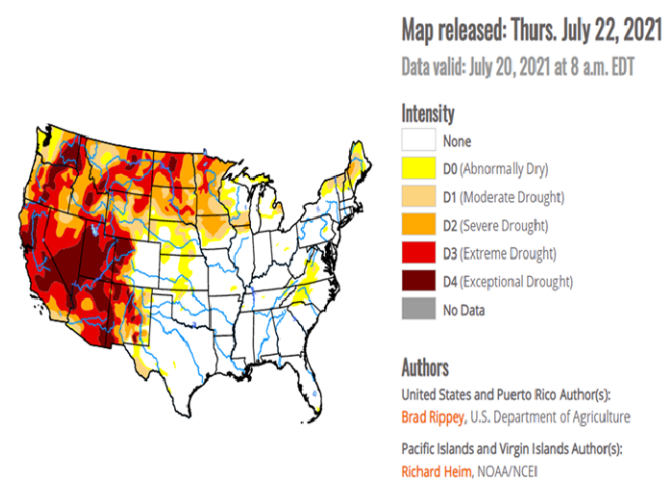
国内需要は減少・在庫は増

アルゼンチン経済は、昨年のパンデミックから回復しつつあるが、そのペースは予想よりも遅い。トウモロコシ価格の高騰により、ほとんどの畜産部門のコストが上昇しており、畜産部門の成長は緩やかなものにとどまると予想される。鶏卵の生産は例外的に落ち込んでおり、小売り価格が安く、生産コストが上昇していることが影響している。

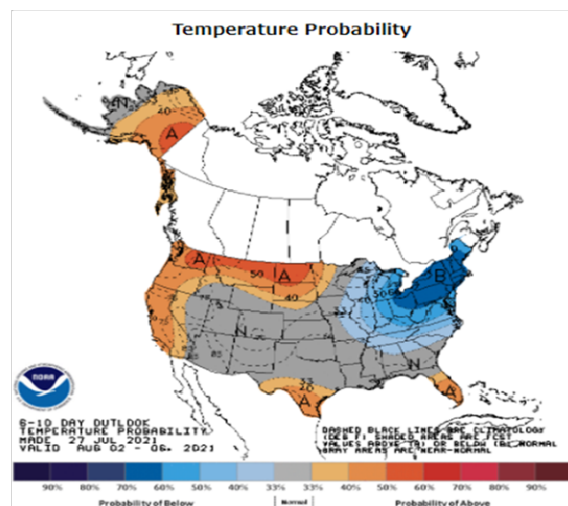


TOPICs 米国の天気

干ばつモニター

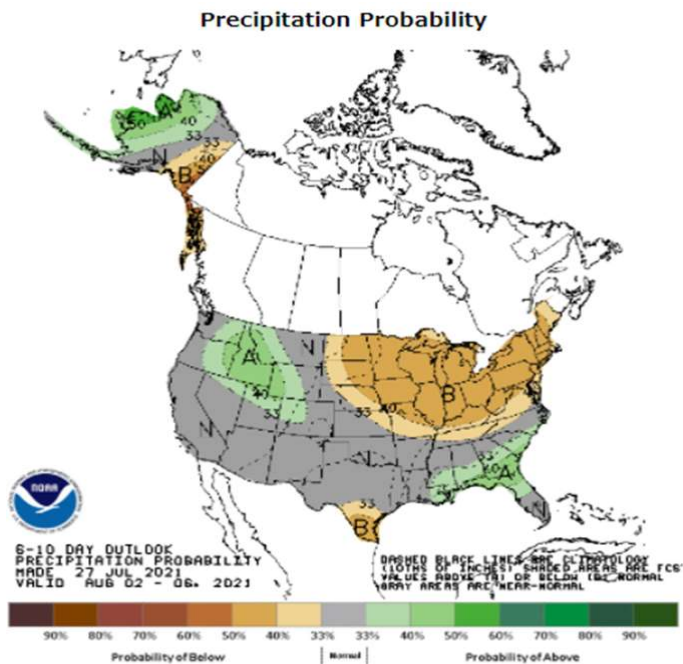


6~10日予報 (気温)





6~10日予報 (降雨)



州	気温	降雨	州	気温	降雨	州	気温	降雨
WASHINGTON	A	N	OREGON	A	A	NRN CALIF	A	N
SRN CALIF	A	N	IDAHO	N	A	NEVADA	N	N
W MONTANA	A	A	E MONTANA	A	N	WYOMING	N	A
UTAH	N	N	ARIZONA	N	N	COLORADO	N	N
NEW MEXICO	N	N	N DAKO	A	B	S DAKOTA	A	B
NEBRASKA	N	B	KANSAS	N	N	OKLAHOMA	N	N
N TEXAS	N	N	S TEXAS	A	N	W TEXAS	N	N
MINNESOTA	A	B	IOWA	N	B	MISSOURI	N	B
ARKANSAS	N	N	LOUISIANA	N	N	WISCONSIN	B	B
ILLINOIS	B	B	MISSISSIPPI	N	N	MICHIGAN	B	B
INDIANA	B	B	OHIO	B	B	KENTUCKY	B	B
TENNESSEE	B	B	ALABAMA	N	N	NEW YORK	B	B
VERMONT	B	B	NEW HAMP	B	B	MAINE	B	B
MASS	B	B	CONN	B	B	RHODE IS	B	B
PENN	B	B	NEW JERSEY	B	B	W VIRGINIA	B	B
MARYLAND	B	B	DELAWARE	B	B	VIRGINIA	B	B
N CAROLINA	B	N	S CAROLINA	B	A	GEORGIA	N	A
FL PNHDL	N	A	FL PENIN	A	N	AK N SLOPE	A	A
AK ALEUTIAN	N	A	AK WESTERN	N	A	AK INT BSN	A	B
AK S INT	A	N	AK SOCOAST	A	B	AK PNHDL	A	B

今後の予想

アルゼンチンのトウモロコシ需給には特に顕著な変化は見られない。生産は順調で、輸出は増加し、一部鶏卵業の低迷があるものの内需も堅調であり、期末在庫は2年連続で減少している。

米国の天候は少し降雨が少ないが、トウモロコシは既にDoughの段階に入っており、作柄も優と良が64%と問題ない範囲に収まっている。今年の米国産小麦は不作であるが、トウモロコシや大豆の生育はそれほど問題はなさそうである。

掲載される情報は株式会社コモディティー インテリジェンス（以下「COMMi」という）が信頼できると判断した情報源をもとにCOMMiが作成・表示したものです。その内容及び情報の正確性、完全性、適時性について、COMMiは保証を行なっており、また、いかなる責任を持つものでもありません。

本資料に記載された内容は、資料作成時点において作成されたものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的財産権はCOMMiに帰属し、事前にCOMMiへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは堅く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは堅く禁じられています。

COMMiが提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本資料に掲載される株式、債券、為替および商品等金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。

本資料は、投資された資金がその価値を維持または増大を補償するものではなく、本資料に基づいて投資を行った結果、お客様に何らかの障害が発生した場合でも、COMMiは、理由のいかんを問わず、責任を負いません。



発行元：

株式会社コモディティー インテリジェンス 〒181-0012東京都三鷹市上連雀1-1-5三鷹ロイヤルハイツ706号
会社電話：0422-56-9819 携帯電話 090-1628-0583 メールアドレス: kondo@commi.cc